

2023 年に実施したネットワーク会議アンケートへお寄せいただいた参加者のご意見より、今後の避難者支援のあり方や、ヒラエスへ期待すること等の回答を以下に一部抜粋しました。

---

### 2023 年度第 1 回ネットワーク会議アンケート（回答 12 名）

---

#### （ネットワーク会議についての感想）

- ・公的支援が縮小・なくなる中での開催に意義を感じるため。市民・民間の立場から、震災当時とこれまでをふりかえり、今後の災害支援に生かすことに意義を感じるため。
- ・支援者が集まり情報交換することは重要
- ・これまでの被災・避難者に関する会議では、当事者の視点や経験、これまでの支援を共有する会議がほとんどだったが、今回の会議は、金銭面で支援する企業側の視点が聞けて新鮮だった。震災から 12 年が経過し、支援の継続を考えたとき、企業との連携は不可欠だと感じるため、当事者、支援者が企業を意識した連携の仕方を考える必要を感じた。
- ・行政の取り組み状況をアップデートできて大変参考になりました。ありがとうございます。
- ・行政や企業、支援団体など普段聞くことが殆ど無い関係者の考えを聞くことが出来たこと。行政のように条例、制度で成り立っている組織であっても、個人の考え（組織、上長の考え？）でかなり「枠の大きさ」や「枠の形、輪郭」も違うと云うことが知れた。できれば、録画等で再度拝見したいです。
- ・もっと深い話までお聞きしたいので、時間が足りなかった。
- ・当事者の方々の考えや、支援に関わる方の考えなど幅広く知ることができ、今後の支援事業の参考となったので。
- ・まだまだ震災前の日常を取り戻すには、粘り強い復興支援が必要だと感じました。
- ・避難者のより良い支援に繋がりそうなので。
- ・意義あることだと考えたから。

#### （活動で悩んでいること）

- ・我々の支援の終了基準が曖昧
- ・行政（官）は 10 年という期間を示して支援してきたように思います。
- ・我々の支援の終了基準というのは決められているのでしょうか？我々 NPO にも終了の基準が必要でしょう。そうしないとズルズルと行動してしまいます。我々の活動は有益で必要なことかもしれませんが、何らかの終了基準はあるべきだと考えます。愛知県では、試して結果待ちのような話がありましたが、ぜひ基準作りをして欲しいものです。そのためにはデータが欠かせませんが、全国のネットワークで取りまとめられているのでしょうか？

まとめられているのなら開示して欲しいものです。行政の指針づくりにも良い資料となるはずです。

- ・いろいろありすぎて。
- ・当事者、支援者において、日々の支援の経験が積み上がっていくなか、福島県や復興庁が経験や課題を取りまとめない場合、当事者、支援者が支援をしながら、どこまで取りまとめることができるのか難しいと感じる。
- ・支援を必要としている被災者の実態が、なかなか把握できなくてもどかしい状況から抜け出せない。
- ・専門知識もなく、相談員としての経験や研修もないままに「仕事」として関わっているため、たえず「こんな受け答えで良いか？」のジレンマが残る。
- ・受けた相談や内容など、関わる範囲について分からないままている。特に、個人的に受けた相談内容か職場内で open にして良いか、どこまで関わるか、仕事か、ボラ（趣味？）か？
- ・日々変化する支援内容に対応する為の専門家の支援が足りないので、素人の支援しか出来ないのが歯痒い。
- ・5年以上が経過し、支援対象者の方の問題も変化しつつあるので、支援方法について再考する必要がある。

#### （ヒラエスに期待すること）

- ・連携
- ・頑張って継続してください
- ・吹田さんを含め、会議の参加を通して、協力いただける企業を増やしていけたらよいと思う。ヒラエスでは、本来、福島県や復興庁が担うべきこれまでの支援のとりまとめ等の役割を担っていると感じます。本当におつかれさまです。
- ・これからも支援団体や行政などとの協業による支援システムの機能強化に挑戦して欲しいと思いました。
- ・全国の避難者支援している方々の経験談をお聞きし、連携していきたい。（本来は福島県や国がやるべき事なのですが）
- ・当事者としての今後の要望など発信し続けていただきたい。

---

#### 2024 第 2 回ネットワーク会議アンケート（回答 9 名）

---

#### （本ネットワーク会議についての感想）

- ・能登の現状を知ること、久しぶりにいろんな人と会えたことがよかった。能登半島地震の広域避難の情報共有があるとよかった。

- ・能登の状況がわかったことと、3.11 との比較、避難者支援のノウハウをどのように活かせるのか考えることができ、とても良い機会となりました。それぞれの災害で地域の状況や復旧の度合い、行政の対応も違いますが、最終的な目的は、被災した人の復興なので、人の復興のために取り組み、まとめてきたヒラエスの支援プロセスは、どの災害でも活かせると改めて思いました。
- ・他団体の具体的な取り組みやノウハウについて知ることができ、大変勉強になりました。
- ・他団体の活動が分かり、自分の団体で足りない事などが補える。
- ・能登半島地震の支援を聞いて現地の様子について知った事、それについての感想を共有できたことも良かった。ほかの支援団体と顔を合わせる機会があるのは本当に貴重だと思います。長期的に被災者支援をする団体は実はほとんどなくて、被災者支援事業は、子供支援や中間支援団体が片手間に委託事業として引き受ける事が多い。そうするとスタッフは短期雇用者なので、ずっと同じスタッフが 10 年以上いることはほとんどないので、こういう団体が全国にあるというのがとても貴重。
- ・各地の被災地の知見や様子、感想を語り合うような支援者の場は、あるようでまったく存在しない。
- ・被災者支援は、短期的に立ち上がり終了する事が求められていて、それは災害ごとに立ち上がるために、支援の手法や地域性もあり独自の手法も多くとても興味深いのに、継承したり共有する機会が少ない。
- ・被災者支援の手法は、ビルドアップで被災者のニーズに応じて作り上げられ変化するものが理想的であるものの、事業化されるものは被災自治体や国の言いなりになってしまい、トップダウンの事業を引き受ける傾向になることも多い。課題共有の機会があれば手法もレベルアップするだろうし、今回のように数々の被災地の支援手法を学ぶ事は、今後の災害にも必ず役に立つと思う。
- ・支援の在り方を見直す、改めて考え直すきっかけとなったため。

(他県の支援団体等と交流できる場やつながりは今後も必要だと思いますか?)

- ・とても必要だと思う 8 / 必要 1

(活動で悩んでいること)

- ・加齢 どんな活動が必要なのかあらためていろんな人と考える必要がある。
- ・行政との付き合い方と、中間支援組織なので避難者との距離、関わり方。
- ・避難者への寄り添い方、団体の存続の仕方。
- ・能登半島地震でまた広域避難者支援が発生し、再び広域避難者支援を始めてしまった。東日本大震災のように復興予算交付金事業(拠点や福島県県外避難者支援事業)はないので 実用的な支援するにはどうすればいいのか、考え中(悩んではいけないけれど・・・)

- ・避難当事者団体のサポートなどでも、高齢化があり、これからの活動や広域避難をどのように伝えていくことができるか考える。

(ヒラエス に期待すること、一緒にやってみたいと思うことなど)

- ・ JCN との連携事業、支援者をつなぐ、一緒に考え話し合う取組みを具体的に考えていきたいです。
- ・ 本来、復興庁、福島県、れんぷくがやるべき、支援のノウハウまとめ、今後活かせる取り組みを、日頃の支援を行いながらヒラエスの皆様が取り組んでいることはとてもすごいことだと思っています。被災・避難経験のある方の生活は続きますが、事業はいつか終わります。それぞれの事業をどう終結して、何を残すか、これからも会議に参加させていただきながら考えていきたいです。
- ・ オンラインでもいいので、感想も聞いてみたい。
- ・ 13 年を振り返って・・・(できたこと) と (できなかったこと) とか。他の支援団体から「これができて、こんな効果があった」と聞くだけでも勉強になりそう。
- ・ 関西は、これからはばらく能登半島の広域避難者支援をすることになりそうなので、ほかの能登半島の広域避難者支援をする団体と共有したいことがある。3 月でホテルから能登の支援が終わるので、広域避難はちょっと増えそう。
- ・ 関西への避難者は家が全壊で高齢だから、しばらくもとに戻れない(戻りたいけど病院がないから無理だと・・・)、待ってる間に死にそうだから多分関西で暮らす、、と言っているのでもしかしたら、他の地域に避難した人も同じなのかもしれないけれど、帰還するかしないかではなく、再建をサポートするのが支援団体だろうと思うので帰還の時期は気にせず相談支援をするつもりなので、同じようなボランティア団体がいれば話してみたい。
- ・ どの欄に書くのがいいかわからないけど、能登半島地震もあって、広域避難について、避難初期の頃からの受け入れやどの様な支援が必要だったかの記録みたいなものは必要かなと思った。

(ヒラエスセミナー等で学びたい内容や講師等の希望があればお聞かせください。)

- ・ ここで書く内容ではないのですが、忘れないように。支援プロセスの中で、既存の制度、しくみなどの理解という項目が必要かもしれません。専門家に聞けばいいのかもしれませんが、福祉ひとつとってもいろんな制度、取組、サービスがあるので、聞かれてから調べることだけではなく、基本的な情報はつかんでおくことも大事なのではないかと。あと、災害後にいつも活用される法令や公的支援制度のことも。そもそも自治体職員さえちゃんと知らないことが多いですし。
- ・ 精神科医の蟻塚亮二さん。震災、原発避難による精神障害などのお話を伺ってみたいです。